京都環境文化学術フォーラム
Special Session

http://earth-kyoto.jimdo.com/

森里海 mori sato umi

「森里海」から「地球」を考える。

➤基調講演

森里海の連環

人と自然を紡ぎ、持続可能社会を

田中　克 / Masaru Tanaka
京都大学名誉教授

➤パネルディスカッション

森里海から考える地球の未来

田中　克 / Masaru Tanaka

×

畠山　信 / Makoto Hatakeyama
NPO法人森は海の恋人 副理事長

×

白岩孝行 / Takayuki Shiraiwa
北海道大学低温科学研究所
環オホーツク観測研究センター 准教授

×

古田裕三 / Yuzo Furuta
京都府立大学大学院
生命環境科学研究科 准教授

2014年12月6日(土) 14:00-17:00 開場13:30

京都府立大学稲盛記念会館〈102講義室〉

◎定　員／150名(先着順) 参加費無料

◎申　込／ウェブサイト申込みフォーム、メール、FAX、郵送いずれかの方法にてお申込みください。
[ウェブサイト]http://earth-kyoto.jimdo.com/ 森里海から地球を考える
[メール]kpiinfo@kpu.ac.jp [FAX]075-703-5319
[郵送]606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5 京都府立大学京都政策研究センター
※お申込みいただいた個人情報はフォーラムに限り使用させていただきます。※参加証はございません。

◎主　催／京都環境文化学術フォーラム
(構成団体)京都府、京都市、京都大学、京都府立大学、人間文化研究機構総合地球環境学研究所、人間文化研究機構国際日本文化研究センター

◎企画運営／京都府立大学 京都政策研究センター

＊京都環境文化学術フォーラム「スペシャルセッション」は、2015年2月7日(土)に開催される『KYOTO地球環境の殿堂』表彰式と京都環境文化学術フォーラム「国際シンポジウム」のプレイベントです。

mori 森　sato 里　umi 海

京都環境文化学術フォーラム スペシャルセッション

「森里海」から「地球」を考える。

京都環境文化学術フォーラムは毎年、京都議定書誕生の地として、生活の質を高めながら自然との共生や持続可能な社会を形成する新たな価値観や経済・社会の仕組みを国内外に向けて発信しています。
2015年2月7日（土）に開催する、「海」の視点から「森」を考える国際シンポジウムのプレイベントとして、今回のスペシャルセッションでは「森」の視点から、「海」について考えます。

Program

➤ 基調講演 14:10-15:00

森里海の連環
人と自然を紡ぎ、持続可能社会を

［講演者］
田 中　克 / Masaru Tanaka
京都大学名誉教授
公益財団法人国際高等研究所ビジティングフェロー
舞根森里海研究所長、NPO法人森は海の恋人 理事

➤ パネルディスカッション 15:15-16:55

森里海から考える地球の未来

パネルディスカッションでは、「森」と「海」の双方向のつながりを重視しながら、「川上」と「川下」をフィールドに研究・活動されている専門家それぞれの切り口から、環境と持続可能性をテーマに語っていただきます。

［登壇者］
田 中　克 / Masaru Tanaka
前述

畠 山　信 / Makoto Hatakeyama
NPO法人森は海の恋人 副理事長

白 岩 孝 行 / Takayuki Shiraiwa
北海道大学低温科学研究所環オホーツク観測研究センター 准教授

古 田 裕 三 / Yuzo Furuta
京都府立大学大学院生命環境科学研究科 准教授

［コーディネーター］
川 勝 健 志 / Takeshi Kawakatsu
京都府立大学公共政策学部 准教授

＊当日はUstream配信予定 ››› http://earth-kyoto.jimdo.com/
あらかじめご了承ください。

『KYOTO地球環境の殿堂』表彰式

2015年2月7日（土）午後
第6回殿堂入り者 **畠山重篤氏**
場所：国立京都国際会館 メインホール
内容：殿堂入り者表彰式、記念スピーチほか
主催：「KYOTO地球環境の殿堂」運営協議会
※表彰式の後、殿堂入り者を交えた京都環境文化学術フォーラム「国際シンポジウム」を開催予定。

Guest Profile

たなか・まさる
―
40年にわたる稚魚の生理生態研究から、陸と海の境界域の大切さを学ぶ。その再生のカギを握る森と海の多様なつながり、それを良くも悪くもする“里”に住む人々の価値観の形成に関する森から海までの統合学問「森里海連環学」を2003年に提唱。社会運動「森は海の恋人」と統合学問「森里海連環学」の連携・協同を基本に据え、我が国周辺の水際の再生に取り組むとともに、続く世代が心豊かに暮らせる持続可能社会の創生に取り組む。

はたけやま・まこと
―
地元の高校を卒業後、C.W. ニコルが実習長を務める専門学校に入学し、生態学、生物調査法を学ぶ。卒業後、鹿児島県屋久島を中心に環境教育、生物調査に携わる。帰郷し、牡蠣漁師として生活しながら2009年にNPO法人森は海の恋人を設立。2011年3月、東日本大震災による大津波で被災、全国各地から訪れるボランティアの受け入れ調整に奔走。現在、唐桑地区を中心に、震災後の自然環境を活かした持続可能な地域づくりを目指す。

しらいわ・たかゆき
―
大学生時代から2000年頃まで、氷河・氷床の変動と気候との関係に興味を持ち、北アルプス剱岳の氷河地形研究に始まり、世界中の氷河・氷床を渡り歩く。2002年に関わったロシア極東を流れるアムール川の研究を契機に、大陸を流れる大河川に魅せられ、水・物質循環の研究に携わる。現在は、ロシア極東と北海道を主たる研究フィールドとして、河川が海洋に与える影響を、いわゆる魚附林、あるいは森里海連環の視点から研究している。

ふるた・ゆうぞう
―
幼少期より森林散策や木材工作が高じて大学では林学を学ぶ。大学院博士課程を修了後、経済産業省の研究所に着任し、工業材料としての木材利活用の研究・開発・普及に携わる。その後、京都府立大学に移り、京都府をはじめとする自治体や国の林業・林産業に関わる委員等を務めながら、木材利活用の教育・研究・開発・普及に携わる。そのモットーは、「樹を知り木を活かす」、「木は建材や家具になるために進化したのではない」である。

Access

会場 **京都府立大学**
稲盛記念会館 102講義室
〒606-8522
京都市左京区下鴨半木町1-5
TEL 075-703-5319
地下鉄烏丸線「北山駅」下車、正門まで南へ約600m
（公共交通機関をご利用ください。）

※当日は正門前より会場の稲盛記念会館までの案内がございます。